

## 突然の

# 豪雨

「日常」の風景が一変した「非常」事態。2か月分の雨が集中した3日間。豪雨の脅威が突然襲ってきました。

**始** まりはいつもより少し強い程度  
の雨でした。7月6日、前  
日からの雨はやむことなく、気づけば  
道路は冠水。家屋にも水が迫る豪雨  
となっていました。福智町で5日から  
3日間降り続いた雨は昨年7月の降  
雨量1月分の倍以上にあたる423  
mmを記録。町として初の避難勧告  
と避難指示が発令され、最大252  
人が避難する非常事態となりました。

神崎では<sup>たきりがわ</sup>泌川が氾濫し、広範囲に  
わたり冠水。日常的に利用される主  
要な道路も通行止めが多発。水没に  
より廃車となるケースも続出しまし  
た。また赤池の草場地区では強い雨  
で彦山川につながる水門が閉鎖され、  
地域を流れる支流が氾濫。水は腰の  
高さまでおよび、避難の遅れた2件の

泌川の氾濫により川と道路の境が無くなるほど水で覆われた神崎地区



7/6 15:50

**強く降り続く雨  
宝見保育園浸水**

雨足が強まる中、保育園浸水の連絡を受け職員が現場に急行。土のうを搬送し流入防止を図りました。町内小中学校でも早期下校が決定するなど危険は迫りつつありました。



16:20

**斜面から流れ込む水  
高尾地区で家屋浸水**

山の斜面に面した高尾地区の住宅地では水が流れ込み、家屋への浸水が発生。土砂災害の可能性も高まり、各地で多発する緊急事態に職員も警戒を強めました。

住宅が孤立する事態となりました。日頃から強い雨が降ると冠水することも珍しくなかった草場地区。住民の皆さんに避難を呼びかけた日高区長は「備えはしていたつもりだったが、想像以上の速さで水が迫り、救助の間も絶えず水かさが増えていった」と当時の緊迫した状況を振り返りました。

17:10

**県内全域に  
大雨特別警報発令**

50年に一度の降水量予想を知らせる「特別警報」。その発令により、町全体の緊張感が急激に高まりました。



17:20

**浸水で草場地区が孤立。  
地域総出で7人を救出。**

草場地域は広い範囲で冠水し、2件が孤立。水かさを増す濁流で足元が全く見えず、到着したレスキュー隊員も救助に苦戦する状況でした。その中で近隣住民からボートを借り受けるなど地域と協力した救助が行われ、無事7人が救出されました。



「気づいたときには水が迫っていた。なすすべもなく救助を待つしかなかった。」

赤池6区(草場)区長  
District Leader **日高一雄**さん

早めの避難を呼びかけたつもりでしたが、想像以上の水足の速さに驚きました。冠水に慣れていた部分もありましたが、今回の災害を経て、日頃の備えの重要性を痛感しました。





12:00

状況が沈静化  
災害対策本部解散

降水量の減少と被害状況の確認ができたことで、第4回会議をもって本部を解散。鳴野町長から幹部職員へ対応への感謝と引き続き警戒を忘れないことが伝えられました。



7/7  
09:30

残る豪雨の爪跡  
復旧作業開始

全ての警報が解除されたこととともない、被害状況の確認と復旧作業を開始。水路や道路を中心に通行の妨げとなる土砂や草木の撤去を各地域で対処しました。



19:13

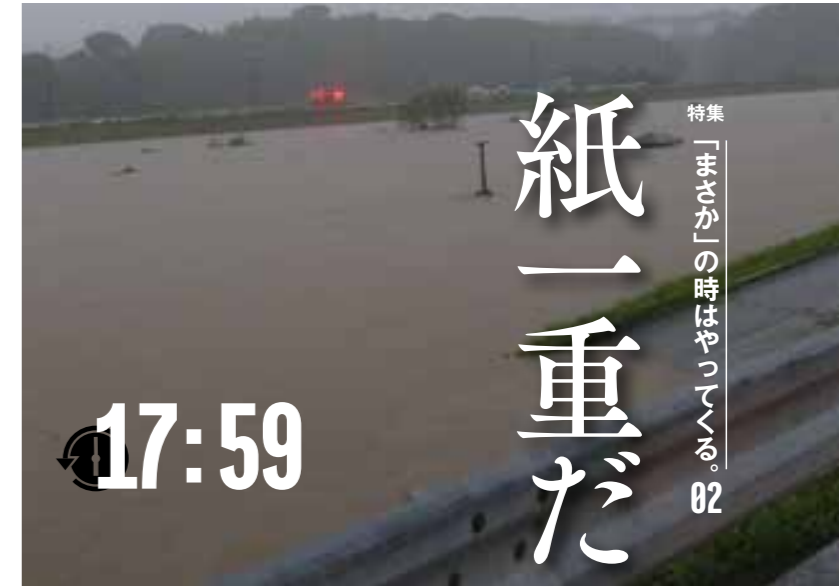
中元寺川沿いで  
最大級の警戒

中元寺川では堤防の限界付近まで増水。観測史上最大の雨量を記録した添田町の陣屋ダムは限界を迎え、下流の中元寺川への放水が警告されていました。降水量の減少で中止されましたが、危機は目前まで迫っていました。



全域に避難勧告  
10避難所を開設

強い雨はおさまりを見せず、町初の避難勧告の発令が決定。町内10か所の避難所を急ぎよ開設するなど、緊急時の対応に追われました。



17:59

紙一重だった危機

特集 「まさか」の時はやってくる。 02

危険の足音は間近に迫っていました。限界だった陣屋ダムの全部放水通知。全職員は寝ずに待機し、備えました。

未

曾有の豪雨でも死者や建物の倒壊など大きな被害はなかった福智町。しかしその実態は事前の備えや幸運が重なった紙一重のものでした。近年行われてきた国土交通省の彦山川護岸工事や氾濫直前での雨量の減少など、多くの要素が重なったことで被害は最小限に食い止められたのです。

降雨時、最大級の警戒を呼び掛ける避難指示が発令された中元寺川上流では、限界を迎えた陣屋ダムの全部放水が通知されていました。もし放水されていたら、すでに堤防付近まで増水していた中元寺川が深夜に氾濫し、大きな被害をもたらした可能性もあります。

「もしもさらに深夜に、ダムが全部放水していたら」

今回のような災害が起きたとき、消防や自衛隊、行政などが支援する「公助」に期待する人も多いと思います。しかしその時、問題は各地で同時多発的に起きています。その状況ではすぐに助けを受けられるとは限りません。実際に東日本大震災では役場が被災し、行政機能がマヒした事例もありました。

防災は自分で対策をする「自助」が7割を占めるといわれています。「自助」ができてはじめて周りを助ける「共助」ができ、「公助」を待つことができます。自分の身は自分で守ることが防災の根源です。

もしものとき、一番に守らなくてはいけないのは自身や周囲の命です。そのためにはただ助けを待つのではなく、状況を判断し行動することも必要。緊急時は家財や車などを諦めなければならぬ時もあります。最優先すべき命を守る。そのための決断が求められます。



自らの「命」を守る、3つの「助」

- 自助 → 自分の力で自分の身を守る 7割
- 共助 → 近隣や地域と協力して身を守る 2割
- 公助 → 国や自治体の支援を受ける 1割

田川地区消防 金田分署  
柴田 賢一郎 小隊長

Firefighter

災害時にはまず近くの避難所へ向かうことを考えてください。非常食や貴重品などは持ち出しやすいようまとめておくことで迅速な避難につながります。しかし最優先すべきは命。危険が迫ったときは避難することだけを考え、行動してください。



7/7

12時00分	7時00分	23時45分	19時13分	17時59分	17時20分	17時10分	16時20分	15時50分	15時30分	15時18分	13時57分	13時30分
第4回災害対策本部会議 災害対策本部を解散	第3回災害対策本部会議 職員が復旧作業を開始	第2回対策本部会議 役場全職員が警戒態勢で待機	中元寺川沿いに避難指示 避難所を開設	福智町全域に避難勧告	市場草場地区孤立 田川地区消防署へ救助要請 レスキュー隊が7名を救出	大雨特別警報発表	高尾住宅床下浸水	宝見保育園浸水	対策本部設置	金田地区に避難勧告	町全域に避難準備情報発令	警戒本部設置

7/6

災害対応、2日間の実録



↑ 刻一刻と変化する状況共有を徹底、最速の対応に備えました。

いざという時のために…事前に準備しておきたい

## 災害時持ち出し品リスト

- |     |   |                                  |
|-----|---|----------------------------------|
| 食料  | <input type="checkbox"/> 飲料水                  | <input type="checkbox"/> 非常食     |
|     | <input type="checkbox"/> 現金 (釣り銭切れを想定し小銭まで準備) |                                  |
| 貴重品 | <input type="checkbox"/> 銀行の口座番号の写し           | <input type="checkbox"/> 車や家の予備鍵 |
|     | <input type="checkbox"/> 健康保険証・免許証など          | <input type="checkbox"/> 印鑑      |
| 情報  | <input type="checkbox"/> 携帯電話、ラジオ (充電器・電池含む)  |                                  |
|     | <input type="checkbox"/> 緊急連絡先                | <input type="checkbox"/> 筆記用具    |
| 便利品 | <input type="checkbox"/> 笛やブザー                | <input type="checkbox"/> 懐中電灯    |
|     | <input type="checkbox"/> ビニール袋                | <input type="checkbox"/> 雨具      |
|     | <input type="checkbox"/> 常備薬・持病薬              | <input type="checkbox"/> タオル・着替え |

- 成人男性は約15kg、女性約10kg 荷物重量の目安です。
- リストは一部です。状況に応じて品物を追加してください。

### 水害時は運動靴で避難を

水害時には長靴が適切に思えますが、水が入ると重くなり動きにくくなります。動きやすい靴を準備しましょう。

### 思い出の品の持ち出し

大切なものは1つの場所にまとめておくと持ち出せる可能性が上がります。また写真はUSBメモリーやSDカードなどにデータで記録しておくことと持ち出しが容易になります。



↑元消防士の経歴を生かし、消防署と連携し町内で防災の講習会を実施。



### 福智町役場 消防防災係

永末 聖峰さん Disaster Prevention Adviser

講習会を行う際は「自助」の大切さを伝えています。どのような災害においても備えはできます。救助を待つ間に身を守るのは自分。正しい知識を持って有事に備えてほしいと思います。



**避** 難行動の際には、冷静な判断をすることが難しくなります。その時になって準備を始めたのでは、すぐに荷物をまとめることは難しく、避難の遅れにもつながってしまいます。正しい知識を持ち、事前の準備を行うことで安全を確保できます。

## 3 事前の災害対策

日常から災害を想定し 正しい知識で対策を。

## 4 つながる人の輪

まさかの時に大切なつながり。 支援から生まれる助け合い。

**東** 日本大震災で大きな被害を受け、浸水地域が市街地の65%に達した東松島市。義援金や職員派遣などの支援が縁となり、渥美巖市長が福智町を訪問し感謝を伝えました。支援の思いは人と人をつなぎ、協力の輪を広げていきます。

### 西日本豪雨 義援金箱設置場所

- 福智町役場本庁
- 福智町役場方城支所
- 福智町役場赤池支所
- 公民館金田分館
- 公民館方城分館
- 方城診療所
- コスモス診療所
- ふくちのち



地震・火災・落雷などふりかかる災害を完全に防ぐすべはありません。しかし備えることで、身に被害や危険が及ぶ可能性を少しでも減らすことができます。 どのような災害であっても「備えすぎる」ことは決してありません。少しでも危険を感じたときの早めの避難、早めの行動が生死を分けまます。かけがえのない命、自分自身を守る「死なない」ための備えを心がけてください。



↑固い握手を交わし、変わらない支援の意を伝えた嶋野町長。

宮城県 東松島市 渥美 巖 市長 Iwao Atsumi

全国の支援で復興は着実に進んでいます。やはり第一は備えです。津波被害は甚大でしたが耐震化に力を入れていたため、地震被害はほぼありませんでした。今後も市民のための環境整備を進めていきます。



### 避難勧告・避難指示(緊急)時の避難所

避難勧告や避難指示(緊急)が出た場合、一時的に居住する施設。

- 金田体育センター
- 中央保育所
- 金田中学校
- 伊方小学校
- ふれあい塾
- 方城中学校
- 弁城小学校
- やすらぎ館
- ふれあい館
- 大浦隣保館
- 方城保健センター
- 上野小学校
- 方城体育館
- 市場小学校
- 赤池中学校

### 自主避難所

災害発生の恐れがあり自主避難する場合、一時的に居住する施設。

- 福智町役場
- 中央公民館
- 公民館方城分館



## 1 避難所の確認

身を守るには、まず逃げる。 避難所をご確認ください。

**災** 害時には各避難所へ。地域ごとの指定はされておらず、どの場所へも避難することができます。経路の安全を確認し、危険の少ない避難所へ向かってください。詳しい内容や危険箇所は全戸配布しているハザードマップで確認できます。



↑ 避難所や警報の最新情報は自動配信されるエリアメールでの確認が有効です。

# 生命を守る 備え

最優先は命を守る。 身を守るのは日常の備え。 他人事にしない意識が重要です。

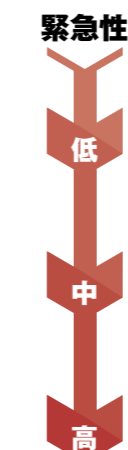
## 豪

雨の際、第一に命を脅かすのが土砂災害。今回の豪雨でも、避難途中に土砂崩れに遭い、命を落とすという事例が県内で発生しました。また、今回の教訓として、ダム決壊を防ぐ放水も警戒が必要です。 山の斜面に隣接する土地、川の付近の低地、水が集まりやすい地形など、被害を受けやすい場所はあらかじめ予測できます。今回の豪雨ではハザードマップで最も危険とされていた範囲を超えて浸水被害が多発しました。何かあってからでは間に合いません。危険予想範囲に住んでいる人はもちろん、その周辺であっても注意を怠らず、危険を想定しておきましょう。

## 2 警戒 避難情報の確認

災害時における3段階の警報。 危険のレベルに応じた判断を。

**町** が発信する情報は3段階に分かれています。各情報に応じ適切な対応や備えをしてください。警報が発令されていない場合でも、危険を感じた時はすぐに身を守る準備に移ることが重要。早めの判断、素早い行動が命を守ることに繋がります。



避難準備・高齢者等避難開始	災害が起きる可能性がある場合に、避難準備を呼びかけます。障害者や傷病者、妊婦、乳幼児・子どもなど特に避難行動に時間を要する人は避難を開始してください。
避難勧告	災害が起きる危険が高まったときに町長が発令する勧告。すぐ近くまで危険が迫っていることが多いため、すぐに避難準備を整え、避難行動を開始してください。
避難指示(緊急)	危険が切迫しているため、迅速に避難行動を開始してください。また避難が遅れた場合は、気象情報や外の状況を確認し、必要に応じて救助要請をしてください。